

森の今を伝える案内人として学び続ける



レンジャーによるネイチャーガイド（自然観察会）では動植物の生態や人間の生活との関わりを解説



参加者と一緒に探す姿勢を大切に

自然の魅力を来園者に伝える活動では、団体向けのネイチャーガイドや、レンジャーが企画・運営を行う主催行事が特に人気があります。この『森の今を伝える案内人として』の役割・知識・技術は1990年の開園から代々受け継がれてきましたが、ベテランのレンジャーでも四季折々に初めて出会う生物がいたりと日々学び続ける意欲が大切です。時には参加者と一緒に夢中になって生き物を探すこともあり、何年修行をしても自然の奥深さに驚かされる事ばかりです。

【野鳥100種類・植物400種類・昆虫400種類を暗記する必要はある?】開園から34年が経過し、適切に保護と管理がなされてきた森には、1,000種に迫る非常に豊かな生態系が構築されています。ただし、レンジャーになったからといって、知識としてこれらの名称を急いで覚える必要はありません。資質としては、むしろ季節の生き物の変化に気がつく人、そこに美しさや感動・興味を覚える人の方が適性があると感じています。

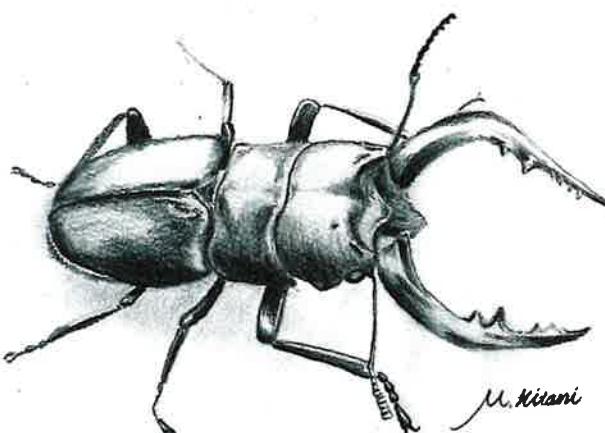


自分たちでつくる～作る、創る、造る～楽しさと難しさの狭間で

★★★★★ Allomyrina dichotoma Master ★★★★★



カブトムシ（幼虫）



レンジャーの業務の中で、各自の個性が最も光る分野のひとつが解説版やポスター、自然イラスト等の製作活動です。既成品ではなく自分たちで作り出した方がよりメッセージを伝えやすいと思うものに絞って作品作りに取り組んでおり、ここでは各位がしのぎを削ってよい作品を生み出そうと研鑽を深めています。とはいっても、納期、対象、予算は切り離せず、しかも仕事として携わる以上はキッチリと成果・結果を導かなくてはなりません。毎作品が真剣勝負なのです。ただ……とてもとても楽しいです！悩みますが楽しいのです。日々歩く森の中で得られた着想を自分なりに形にしていく、難しけれど、着実に上達を感じられる事が励みになります。

拠点施設であるネイチャーセンターに正面から入ってすぐ見えてくる円柱水槽群、ここにはイモリやサワガニ、メダカ、ドジョウ達が小さな子ども達の目線に合わせて生体展示されています。

屋外 21ha を有する自然保護区であっても、実際にいる事が出来る場所は限られており、特に水辺は安全上の観点から中々近くで生物を見る事が出来ません。そこで、なるべく自然に近い形で水景を作り出し『生き物と出会うきっかけの場』を設けて来館者に提供しています。2012年から始まったこの挑戦も 10 年を超え、より難しい課題に挑み続けています



里山の水辺を身近に感じられる「ここだけにしかないアクアリウム」を目指して
来館者の反応を受け止める、自分の感性を信じる、同僚の言葉を糧にする。



仕様書には無かったけれど、
挑戦してみたくなった。
やってみようと思った。

小さな水槽なら空いた時間にやれるだけ、
キャビネットと水槽を同時作成するなら年にひとつだけ、という予算も空間も限られた中での挑戦は、趣味でしか水槽に携わった事の無いレンジャーによる途方も無いトライ&エラーの繰り返しでした。
大きすぎて設計通り収まらない後付けのキャビネット、増えすぎてメンテナンスが追いつかない水草、隙間から逃げてしまうイモリ、3D プリンタで苦労して作ったギミックが数日で破損したり・・・。
たった一人で始めた挑戦は、今では多くの来館者の支持を得て、牛久の森に欠かせない名物アクアリウムとなりました。
里山の水辺を身近に感じられる「ここだけにしかないアクアリウム」を目指して、日々、来館者の反応に神経を集中し、同僚達からのフィードバックに耳を傾け、ひたすらに自分の感性に問いかける、とてもやりがいのあるミッションです。